

株式会社DnD — コラム資料

「AIを入れたのに、 使われない」を解決するには？

チームへのAI定着を促す3つの働きかけ

株式会社DnD (DnD Inc.)

<https://dnd-inc.jp>

この資料の要点

- AIが使われない理由は「ツールの問題」ではなく「使う場面の設計」の問題であることが多い。
- 全員一律ではなく、特定の業務・特定の人から始めて成功体験を広げる順序が定着を早める。
- 「使い続ける仕掛け」を小さく作ることで、習慣化するまでの摩擦を減らせる。

なぜ「導入したのに使われない」のか

AIツールを導入しても定着しない現象は、多くの企業で共通して起きています。使われない理由を掘り下げると、ツール自体の問題というより、「自分のどの業務でどう使えばいいが見えない」という設計の問題であることがほとんどです。

加えて「周囲が使っていない」という空気も壁になります。チームの誰も使っていない状況で「自分だけ使う」のは思いのほかハードルが高く、最初の一人が動き出すまでの時間が長くなりがちです。

AI定着を阻む3つの壁

- 具体性の欠如：「AIを使おう」という号令はあっても、「この業務のこの作業でAIを使う」という具体的な場面が定義されていない。
- 最初の摩擦：ログイン・プロンプトの書き方・出力の確認、という最初のひと手間が「後でいいや」になる。効果を感じるまでの時間が長い。
- 成功体験の孤立：一人がうまく使えても、それが組織の知識として共有されない。「あの人のだけのスキル」で終わる。

チームへのAI定着を促す3つの働きかけ

① 「業務を1つ決める」から始める

「AIを使いましょう」という抽象的な呼びかけより、「週次の報告書の下書きだけはAIに任せる」と業務を1つに絞ることが定着への近道です。業務を選ぶポイントは「毎週繰り返す」「入力と出力がある程度決まっている」「自分で成果物を確認できる」の3点です。

「全員に全部使わせようとする」と、誰も使わない」。最初は一点突破で、特定業務の成功率を上げることを優先する。

② 「最初の成功体験」を組織で共有する仕組みを作る

1人がAIでうまくいっても、それが組織の力にならなければ定着は進みません。週次の朝会やチャットで「この業務でAIを使ったら〇分短縮できた」という一言を共有するだけで、他のメンバーへの心理的障壁が下がります。

- ・ AIを先に使い始めた1~2人を「AIパイロット」として位置づけ、チームに共有する役割を与える。
- ・ うまくいったプロンプトをドキュメントに残し、チームで使い回す。
- ・ 失敗事例も共有して「こういうときは使わない方がいい」という知見を蓄積する。

③ 「使わないと少し不便」な状態を小さく作る

定着の鍵は、使うことへの動機ではなく使わないことへの小さなコストを生み出すことです。チームのドキュメントテンプレートに「AI下書きを貼り付ける欄」を設けるだけで、「とりあえずAIに出さしてみる」行動が生まれやすくなります。

環境設計の3つのポイント

- ・ アクセスのしやすさ：AIツールをブラウザのピン留め・デスクトップショートカットに置く。毎回ログインが必要な状態は習慣化の大敵です。
- ・ プロンプトのテンプレート共有：「このコピペで始められる」という出発点があると、ゼロから考えるストレスがなくなります。
- ・ 小さなチェックポイント：月に1回でも「AIをどのくらい使えたか」を振り返る場を設けると、意識が継続します。

まとめ

「AIを入れたのに、使われない」問題の本質は、ツールではなく場面設計と環境設計にあります。全員一律で始めるのではなく、業務を1つ絞り、成功体験を共有し、使わないと少し不便な状況を作ること。この3つの働きかけを小さく積み重ねることが、AI活用の定着への現実的な道筋です。

株式会社DnDでは、AI活用の定着支援・社内ルール整備から業務の自動化設計まで、
中小企業向けのハンズオン支援を行っています。まずはお気軽にご相談ください。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>